

**the
Quintessence**

Volume 7 No. 8 別刷 1988年 8月10日発行

Comments in a nutshell

4

HPI(ヒューマン・パフォーマンス研究所)

連絡先：静岡県熱海市田原本町9-1熱海第一ビル

QUESTION

先生は、今までに多数の歯科医院を設計してこられたと思いますが、なぜ歯科医院の設計を手掛けるようになったのですか？また先生に設計をお願いする場合、何かルールのようなものがありますか？(K)

COMMENT

私は1950年代には、様々な歯科医療施設において、人間の出会いの条件や治療条件の研究に、積極的に関わり、インストルメントや、器械、材料、協働者の使用、術者の姿勢や位置等について検討、評価を行っていました。このような検討の対象となった施設には、大学の診療所、開業医のための歯科医院、病院の手術室等が含まれていました。さらに当時米国が主催していた人材交流プログラム(People-to-People Program)を通じて、日本や東南アジア諸国を訪問し、多くの施設において患者の治療法についてデモンストレーションも行いました。

ある時、戸外、それも青空の下、野原でデモンストレーションをする機会があったのですが、その時私たちは「理想的な歯科医療のセッティング」を求める演習を行いました。これは最も有意義なオリエンテーションだったと思うのですが、私たちは、既存の壁面や歯科用器械に影響されることなく、理想的な歯科医療のセッティングの細部にわたって合意を達成することが簡単にできました。

そこでは、各人の居場所、各人のステーションや通路の寸法、そして施設全体の空間の寸法を規格しようと試みました。

今日私たちはこのような手法に基づいて規格したセッティングを固有感覚に基づくセッティングと呼んでいます。固有感覚(proprioception)とは、バランスの維持および筋肉調整のための感覚であり、この感覚を基にして、人間の所定の目的を持つ行為(パフォーマンス)の最適な行い方や、人間が、休息したり、仕事をしたり、歩いたりする時に占める、最適な空間を知ることができます。まず固有感覚に基づいて求めた空間は、次に胴体や、四肢、手指の接触や視覚の条件によって検証されます。このようなテストをPCSテストと呼んでいます。PCSとは、Proprioception-Contact-Sighting(固有感覚-コンタクト-視覚)の意味です。PCSテストによって承認された歯科医院の枠組みは、非常に標準化されていますが、広々とした開放感と極めて魅力的な環境を提供してくれます。

さて1959年に私は、友人の宮田先生から、東京に日本の個人開業医の模範となるような歯科医院を開設してくれという依頼を受けました。宮田先生は非常に立地条件の良い場所に、可能な限りの広い空間を提供して下さったおかげで、この歯科医院は、私が固有感覚に基づいて規格した最初の歯科医療施設となりました。

歯科医療のための理想的なセッティングを設計するには、理想的な人間の出会いの条件や、理想的な患者の治療方法を明らかにする必要があります。

した。さらに、問題がひとつ残っていました。個人開業のセッティングにおいて、歯科医師および協働者の理想的な人数は何人か？ という問題です。

診療所の入口に計測の原点(ゼロ・ポイント)を設け、このゼロ・ポイントから固有感覚に基づいて受付エリアの規格を求めました。また非常に注意深く受付員のステーションについて PCS テストを行った後、治療エリアの規格に着手しました。当時は PCS テストに合格する歯科用器械、キャビネット、インストルメント類は、皆無に近い状態でした。とりわけ固有感覚に基づいて治療手順の行い方を決めるという考え方そのものが、当時の歯科界には存在していませんでした。この「理想的な」セッティングを実現するために、私たちは建物の構造物、器械、キャビネット、インストルメント等を詳細に規格する一方で、過去の習慣を完全に捨て去る決意を持った歯科医師を見つけ出すという問題に直面しました。

当時ある大手歯科メーカーの役員の方々が、私たちに PCS テストによって承認された器械を優先的に製造し、提供するという決定を下してくださったことは、私たちにとって幸運なことだったと思います。

以上のようないきさつで完成した、固有感覚に基づいた初めての歯科医院は大きな反響を呼び、私のところには、歯科医院を設計してほしいという歯科医師からの依頼が殺到しました。最初私は、歯科医師が指定する空間の制約内で、各医院を設計していましたが、2、3年して最初のルールを設定するにいたりました。すなわち最低140m²の空間がある場合にのみ設計を引き受けるというルールでした。140m²以下の狭い空間での歯科診療は適応がありませんし、後の増改築は通常困難で、高価につくからです。

やがて、私はもう一つの結論に到達しました。歯科の個人開業は、ソロ・パートナーシップ(solo-partnership)に基づくべきだということです。ソロ・パートナーシップとは、2名の歯科医師が、

歯科医院の設備と特定の経費を共有しながら、患者の治療によって生じる収入は独立採算で、共同診療を行うという形態です。2名の歯科医師は、PCS テストによって承認された人間の出会いの物理的条件や、治療手順の行い方や環境条件等インストルメントの理解に基づいて、一つの歯科医院で共同診療を行えば、パートナー間の意見の相違や対立の原因は、最小限におさえられます。

各歯科医師の毎日の仕事量を考慮すると、2名の歯科医師がひとつの入口と1名の受付員を共有するのが理想的です。ソロ・パートナーシップの形態には、開設者だけの単独診療、あるいは開設者と勤務医、または開設者が協働医の収入の何%かを得るといった形の共同診療に比べて、ストレスの軽減並びに純収入の増加という大きな利点があります。

この他にも、次のようなルールを設定しました：一固有感覚に基づく治療技術(スキル)とセッティングの採用を希望する歯科医師は、専従のスペシャリストの補佐を受け入れること。

診療環境、治療技術(スキル)および経営についての考慮は統合されるべきなので、現在歯科医院の設計を希望する歯科医師は、スキル・アンド・マネジメント・プログラムに加入することになっています。

一私達のロジックに基づいた、健康志向型の数字式診療記録方法および情報管理システムを採用すること。

また歯科医師は、グループ診療をしたいのか、個人開業をしたいのか、歯科医院の設計を始める前に、自分の希望をはっきりさせる必要があります。PCS テストに基づいて規格したグループ診療の条件は、非常に魅力的なものです。私は、特に大都市においては、今後地価の高騰のために個人開業は非現実的になってくると思うので、その意味ではグループ診療は有望であると思います。

さらに詳しい情報をご希望の方は、お手紙でご連絡下さい。(訳 三明)